

令和6年度第1回 東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会 議事要旨	
日 時	令和6年6月26日（水）午後1時30分～午後3時37分
場 所	北区役所第一庁舎 4階 第2委員会室
出席者	<p>■委員出席者（委員16名うち代理出席3名、臨時委員1名）</p> <p>竹島 正 委員長  石井 綾華 委員  森下 宏光 委員（稲垣 政美 委員代理）  上田 文子 委員  大田 裕子 委員  岡村 聡 委員  河奈 正道 委員  河西 麻子 委員  小池 一博 委員  小林 明夏 委員  佐藤 修 委員（佐野 恭一 委員代理）  下里 尚也 委員  伊藤 栄 委員（菅原 慎一 委員代理）  関口 久子 委員  畠中 俊明 委員  宮川 祐子 委員  明 英彦 臨時委員</p> <p>■欠席者（5名）</p> <p>名取 秀康 委員  西村 由紀 委員  鮎田 栄治 委員  三宅 康史 委員  山内 貴史 委員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員長選出</li> <li>2 自死遺族家族会からのメッセージ （自死遺族とうきょう自助グループみずべの集い 明 英彦 氏）</li> <li>3 地域における自殺対策について （川崎市健康福祉局総合リハビリテーションセンター 所長 竹島 正 氏）</li> <li>4 北区の自殺の状況について</li> <li>5 北区ヘルシータウンにおける自殺対策について</li> <li>6 令和6年度の取り組みについて</li> </ol>

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次第</li> <li>● 資料1 北区の自殺の状況</li> <li>● 資料2 令和6年度の取り組みについて</li> <li>● 資料3 ゲートキーパー研修について</li> <li>● 地域における自殺対策について (臨時委員配付資料)</li> <li>● 自死と向き合い、遺族とともに歩む～法律・政策―社会的偏見の克服に向けて～(冊子) (参考資料)</li> <li>● 東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会設置要綱</li> <li>● 北区いのち支えるセーフティネット協議会委員名簿</li> <li>● 東京都北区自殺予防対策推進本部設置要綱</li> <li>● 「東京都北区自殺予防対策推進本部および幹事会」設置について</li> <li>● 北区ヘルシータウン21(第三次)(冊子)</li> </ul>
要 旨	
開 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長挨拶</li> <li>・ 事務局から委員紹介、本協議会の目的、委員の任期(2年間でR8.6.25まで)及び委嘱状の交付等について説明</li> </ul>
議題1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局から、委員長に竹島委員を選出する案が示され、一同拍手により竹島委員が委員長に選出</li> <li>・ 委員長から就任挨拶 ～これより委員長が議事進行～</li> </ul>
議題2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自死遺族とうきょう自助グループ「みずべの集い」の自死遺族(臨時委員)から、自身の体験、自死遺族の現状、活動内容についての報告、自殺対策に対する意見</li> </ul>
議題3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長から、資料「地域における自殺対策について」に基づき、説明</li> </ul>
議題4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局から、資料1に基づき、説明</li> </ul>
議題5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局から、資料2～3及び「北区ヘルシータウン21(第三次)」に基づき、説明</li> </ul>
質疑等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20歳代と80歳代の女性の自殺死亡率が全国平均より高い動機や原因を教えて欲しい。 (事務局から、20歳代と80歳代いずれにおいても要因は不明で今後の検討課題と認識している、との回答。)</li> <li>・ 人口10万対の自殺死亡率では、区の数値は全国より小さい数値になるので、高いというのをどう認識したらいいのか、データの見方も悩ましい点がある。学識経験者の委員に見てもらってもよいのではないか。また、ゲートキーパーについては、まずは女性だけでなく全体を対象に行い、今後、それと個別対応をどう組み合わせしていくか検討していくのが良いのではないか。</li> <li>・ これからは自殺対策の強化月間の通知等で「自殺」ではなく「自死」</li> </ul>

という言葉を使った方がよいと思った。

- 自死遺族の話聞いて、これからは自死を考えている方だけでなく、ご遺族の方たちの気持ちも考えていく必要があると気付かされた。
- ゲートキーパー研修の対象者を、女性に対応する職員を対象にしたかどうか。
- ゲートキーパー研修（初級・中級・上級）は良いプランである。レベルアップの研修だけでなく、相談内容等の経験を共有する場があるとゲートキーパーが育っていくのではないか。
- 学校のカリキュラムでは、命に特化した授業時間の確保は難しいが、色々な働きかけを行っている、例えば6月のふれあい月間では、北区内の小中学校において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの協力をいただきながら、子どもたちや地域の方、保護者の方々に、いろんな窓口があることを周知していますが、本日のお話を伺って改めて周知することが重要だと感じた。
- 資料1 小5・中2の調査結果について  
悩み等を相談しない、相談先があることを知らなかった、誰に相談していいかわからないという児童が多いことに衝撃を受けた。区では小5・中2を対象に都のカウンセラーが全員面談を行っている。本校児童がどのような悩みを抱え、どのような相談先を考えているのかを把握する必要があると感じた。
- 学校現場で、小学生よりも中学生の方がストレスを溜めていると感じている。改めて、生徒自身の自己肯定感が上がる取り組みをしていきたいと思った。
- 普段、経済的な問題を抱えた方の相談を多く受けているが、最近、精神的に不調な方からの相談が増えている。その中で、なかなか相談していただけない、もう少し早く相談に来てくれればと悩むことが多い。生活保護の申請に同行することもあるが、本人たちの思い込みと同時に社会側からのスティグマが大きく影響しているのではないかと感じるが多々ある。自死予防を考えると社会がどのようなあり方をしていくのかを考えていかなければならないのではないかと思っている。
- 普段、安否確認を多く行っている。幅広い相談業務を行っているが、本人からよりも病院等の関係機関からの相談が多い。自殺の主な原因の中に経済的な問題とあったが、現場では経済的な相談が増えてきており、もっとしっかり関わっていかなければいけないと思った。
- 毎年9月から3月までの間、精神保健福祉士や公認心理士に同席してもらい相談会を開催している。相談に来る本人が何に悩んでいるかわからない漠然とした不安を持って相談に来る方が多く、法律的なアプローチからだけでなく、心理職からの目線でのアドバイスをいただきながら、より良い相談を受けられるように取り組んでいる。

- 普段、子ども向けのスポーツクラブ、こども食堂やフードバンク、今年度からは北区の政策提案協働事業でアウトリーチ型の孤立対策支援を行っている。アウトリーチの訪問員、子ども食堂の運営者等の方がゲートキーパー研修に参加できればと思った。
- 普段、孤立しがちな高齢者宅や困窮母子家庭等へ定期的に訪問している。今日、孤立・孤独が自死につながる事が多いと聞いたので、普段の活動を見直して、孤立・孤独を防ぐような方策を立てて、ゲートキーパーという形で自死を防いでいけたらと思った。
- 業務で、自死までいかないまでも職場でのトラブルの相談を受けている。今後、ハラスメントなどの相談で、法律的なアドバイスだけでなく、メンタルケアについて相談できる各種相談先を紹介できればと思っている。
- 私自身も自死遺族であるが、これまで人に言えなかった。遺族グループの存在についても知らなかったが、この協議会で得たことを踏まえて活動できたらと思った。
- 東京消防庁のホームページで救急活動の統計を掲載しており、その中で「急病」「一般負傷」など、事故種別ごとの搬送人員も掲載している。「自損行為」という事故種別が自死を企図された方である。令和4年の搬送件数については、女性が男性の2倍以上となっている。
- 日頃から業務で自死問題に対応している。警察では毎晩自殺を主とした事案を数多く取り扱っている。警察で保護できる時間は、基本24時間、最大でも72時間であるが、引継ぎを受けてもらえないケースが多い。警察としての役割を適切に果たすためにも区としてスムーズな対応が図れるよう受け入れ窓口を整備していただきたい。警察から依頼があったら協力をお願いしたい。
- 警察で保護される方は、色々なケースがある。保護される方にも適切な知識や相談先があれば状況が好転するケースもあるのではないかと考えた。
- 年々、生活相談が増えている状況であるが警察だけでは解決できるものではなく、関係機関と連携して問題解決していきたい。
- 分かち合いの場で親を亡くされている方は極めて少数であり、その親の年齢に自分が近づいてきた頃にどう向き合うか悩む方が多い。若いうちは自分の記憶の中で蓋をするのもありだと思う。
- 日本では、同僚や友人が自死で亡くなった場合、組織全体で隠すことが一般的であるが、アメリカでは学校葬が執り行われており、非常に驚いた（冊子 p.48 参照）。日本でもこのように学校全体で向き合う取り組みを希望する。

閉 会